

[報告]

中等教育研究センター 2010年度活動報告

植 田 健 男
永 井 領 晃

本年も「あるべき中等教育の姿」を目指し、かつ高等教育を充実させていくための先導的な実験研究開発プロジェクトを行ってきた。それらの活動の概要とこれからの課題について以下に示したい。

○学びの杜・学術コース

「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の学問研究の最前線で活躍する研究者たちが、高校生を対象に、それぞれの学問領域における知の探究の成果や方法、スタイルなどについて、わかりやすく解説し、知の探究の楽しさと厳しさを体験してもらうという目的で開設された「学術的な探究講座」である。大学レベルの高度な「学び」を体験することにより高校生が、各自の適性について、また興味や関心について育み、将来のヴィジョンを広げたり、キャリア・デザインの形成へと発展できるように企画されており、本年度は電子工学探究講座、コンピュータ活用探究講座、地球市民学探究講座、文学探究講座、視覚文化探究講座、生命科学探究講座、人間発達科学探究講座の7講座が開講された（各講座の概要については後の添付資料を参照されたい）。

延べ100人を超える参加があったが、講義後実施したアンケートの結果からほとんどの生徒にとって満足する内容であり、各研究分野の知に触れることが出来たようである。また、同アンケートから、名古屋大学そのものにも興味をもっている高校生ももちろん存在するが、多くは「勉強」ではなく「学ぶ」場を渴望していることが伺えた。結果として自分の思い描いていた学問・研究のスタイルとの違いを感じている記述も若干あったが、このような機会に参加することで、大学に入ってから学びについて路頭に迷ったりやる気を失ってしまい退学するのではなく、「今」自分の「進路」についてしっかりと向かい合うことが出来たのではないだろうか。

受講者数が増えつつあることや、関心の高い生徒が多く存在することを考慮すると、申し込み方法や、広報の仕方を今一度検討する必要がある、一人でも多くの生徒にとって参加しやすいものを目指していくべきであろう。また、講座の内容についても生徒から募っても良いかもしれない。

生徒たちの「学び」の枯渇を解消していくためには、各高校内での取り組みが重要となってくる。そのような状況ではセンターと各高校間で連携していくことも出てくるだろう（実際、名古屋大学教育学部附属中・高等学校（以下、名大附属）では大学と共同で研究開発を行っている）。今後の展開がますます重要となっている。

○中津川プロジェクト

名古屋大学の著名な研究者たちのワークショップを体験する「夏期短期集中型高大連携教育プログラム 第二回中津川プロジェクト」に本年度からセンターも関わるようになった。同プロジェクトは「よむ・かく・みる・ふれる・ときはなつ」をテーマに、東海地区国立大学共同中津川研修センターで2010年8月10日～12日の3日間実施され、杉山寛行副総長をはじめ、名古屋大学博物館 足立守特任教授、環境学研究科 小松尚准教授、情報科学研究科 戸田山和久教授、医学研究科 安井浩樹准教授・青松棟吉助教の7名の大学教員が高校生に向けて「授業」を行った。そこでは、各教員の研究を紹介するのではなく、教科を超えて学問に触れること、社会や大学の学問と連携することが目指され、科学リテラシーの基礎の学び方に重点が置かれた。

なお、同プロジェクトの詳細については名古屋大学教育学部附属学校評議会、名古屋大学教育学部附属中・高等学校『夏期短期集中型高大連携教育プログラム 第二回中津川プロジェクト報告書』を参照のこと。また、名大附属高生の名古屋大学全学教育科目「基礎セミナー」参加の概要についても書かれているのであわせて参照されたい。

中津川での学びが当日参加するだけで終わってしまうという現状のままではプロジェクトの目的を達成していきけるとは言い難く、「基礎セミナー」や「学びの杜」といった他のプログラムとの連動、事前学習及び事後学習会の開催等を行うことで明らかにされた大学の学びにつながる基礎的な「学ぶ」力を統合していくことが求められている。そのためには大学側と附属側とが共同でプロジェクトの内容を検討する際に、高校で行われる通常の授業との関連性をより明確にし、センターとして今後どのように関わっていくか検討の余地がある。

未だ手探りの部分も多いプロジェクトではあるが、様々な展開が可能である。また各研究分野間、学部間が関わっているものは少ない中、このように垣根を越えて連携していくことが求められているのではないか。

○オープンクラス

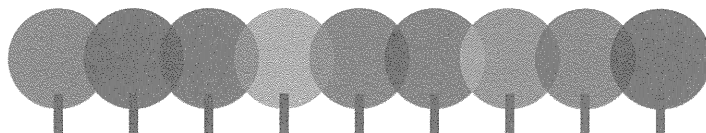
2010年11月2日～5日の間。教科の授業はもちろん、SSHプロジェクトであるSLPⅠ（サイエンスリテラシープロジェクト）（科学市民講座・ものづくり講座・表現講座・地球市民講座の4つの中から半期ごとに1個ずつ選択して学ぶ授業）やSLPⅡ（新教科群。3人の教員によるチームティーチングと、名古屋大学の教員との連携授業）などが公開した。

参加者が10人弱と少なかったのは、これまでと同様、課題である。高大連携を考えるにあたり、高校の取り組みももちろん重要となってくるが、それを発信する唯一の取り組みともいえる。センターとして広報し、多くの大学関係者に参加を呼び掛けていく必要がある。

○紀要

名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属中等教育研究センター紀要（中等教育研究センター紀要）は、中等教育に関する総合的な観点からの研究成果を発表し、青年前期に発達に則した中等教育の改善、および中高大連携の推進に寄与することを目的として年1回、三月に発行しており、本号で11号となる。

2010



2010年度 豊かな人間形成のための

学びの杜・学術コース

▶生命科学探究講座

▶地球市民学探究講座

▶文学探究講座

▶人間発達科学探究講座

▶視覚文化探究講座

▶電子工学探究講座

▶コンピュータ活用探究講座

[対象：高校生／受講無料]

[学問の世界を知り、創造的な学びの力を育む]

「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の学問研究の最前線で活躍する研究者たちが、高校生のみなさんを対象に、それぞれの学問領域における知の探究の成果や方法、スタイルなどについて、わかりやすく解説し、知の探究の愉しみと厳しさを体験してもらうという目的で開設された本格的な「学術的な探究講座」です。

大学レベルの高度な「学び」を体験することにより、高校生の皆さんが、各自の適性について、また興味や関心について育み、将来のビジョンを広げたり、キャリア・デザインの形成へと発展できるように企画されています。是非、参加してください。

主催：名古屋大学大学院教育発達科学研究科 中等教育研究センター <http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/manabinomori.html>

名古屋大学の知を高校生に

電子工学探究講座—不思議と英語が聞こえてくる?!—

なぜ、日本人は英語の聞き取りで苦労するのか?この講座では英語を聞き取りやすくする電子工学的工夫について分かりやすく紹介します。試作器はおみやげに差し上げますので、英語力アップに活用してください。

定員=25名 場所:工学研究科(予定)
申し込み締め切り=7月23日(金)
担当部局=工学研究科 古橋研究室

	日時	担当者	テーマ	概要
1	8月3日(火) 10:00→12:00	古橋武ほか	不思議と英語が聞こえてくる!	英語の聞き取りで苦労していませんか?英語を聞くことに神経を集中しても、5分ともないことはありませんか?どうすれば聞き取れるのか?本講座では、英語を聞き取りやすくする電子回路「英語補聴器」の分かりやすい紹介をします。講師自身が「耳からうろこが落ちた!」体験を語り、皆さんには「英語補聴器」を試作してその効果を実験してもらいます。

コンピュータ活用探究講座—数学・物理が見えてくる?!—

数学・物理の理解に苦しんでいませんか?この講座では、コンピュータの活用によりイメージで高校数学・物理を理解しやすくしているWebページを訪ね、その活用法について探ります。

定員=25名 場所:工学研究科(予定)
申し込み締め切り=7月23日(金)
担当部局=工学研究科 古橋研究室

※受講資格:物理1と数IIBを履修中もしくは履修済みであること

	日時	担当者	テーマ	概要
1	8月3日(火) 13:00→14:00	古橋武ほか	数学・物理が見えてくる!	数学・物理の理解に苦しんでいませんか?最近Web上に、コンピュータを活用してイメージで高校数学・物理を理解しやすくする工夫を紹介するページが増えつつあります。試験勉強をしながらでも分からないとき、このようなページを知っていると大きな助けになることがあります。この講座では講師自身の工夫を紹介するとともに、これらWebページの活用法を受講生と一緒に探ります。

地球市民学探究講座

地球規模のさまざまな問題—貧困、民族紛争、多文化共生など—を取りあげながら、異文化理解の方法や地球市民としてのあり方について考えます。

定員=40名
申し込み締め切り=6月24日(月)
担当部局=国際開発研究科・教育発達科学研究科・
情報科学研究科・留学生センターほか

	日時	担当者	テーマ	概要
1	5月29日(土) 10:00→12:00	齋藤洋典	グローバル化と他者理解	人の身になって考えるとはどういうことか。同じ文化及び異なる文化の背景をもつ人々が互いに理解しあうことの意味とその方法を一緒に考えます。
2	6月26日(土) 10:00→12:00	野田真里 (中部大学)	世界の貧困	3秒に1人なくなる子ども—他人事ではない世界の貧困。グローバル化の進展とともに拡大する経済社会格差と深刻化する貧困問題について、私たちの生活との関連において、参加型ワークショップの手法を用いて考えます。
3	7月3日(土) 10:00→12:00	サガヤラージ (南山大学)	多文化共生社会を誇るインド(1)	インドにおいて多文化・多民族・多宗教が共存(共生)するあり方を事例として紹介していきます。そこから、自文化を保持しつつ、多様性を認めるグローバルなあり方を考えていきます。
4	7月3日(土) 13:00→15:00	山田肖子	学校(教育)に行く意味を考える	日本では当たり前になっている学校教育が普及していない地域が世界には沢山あります。そのような地域で、教育機会が広がるということは何を意味するのでしょうか。私たちはなぜ学校に行くのでしょうか。
5	7月10日(土) 10:00→12:00	野田真里 (中部大学)	国際協力と地球市民	貧困なき地球社会のために—他人事ではない日本の、そして世界の貧困問題の解決のために、何をなすべきなのか、そして私たち市民は何ができるのかについて、参加型ワークショップの手法を用いて考えます。
6	7月17日(土) 13:00→15:00	服部美奈	東南アジアと国際教育協力	東南アジア地域における国際教育協力のあり方の概観と、地球規模の問題に取り組む団体を取り上げながら、国際教育のあり方について考えます。
7	7月21日(水) 10:00→12:00	サガヤラージ (南山大学)	多文化共生社会を誇るインド(2)	Self Help Groupという地球住民による自主的・民主的な活動例を通して、自文化を保持しつつ、民族・宗教・カーストの垣根を越え、多様性を認め合って生きる、グローバルな共存(共生)のあり方を考えていきます。
8	7月22日(木) 10:00→12:00	岩城奈巳	日本人の英語教育に対する学習不安	日本人は外国語、特に英語を学ぶにあたり、いろいろな不安を感じます。自分の発音がおかしいのではないかと、間違えることによって人に笑われるのではないかなど、多くの不安に直面します。こうした英語学習の不安について、一緒に検討します。
9	7月24日(土) 10:00→12:00	佐藤良子 (愛知淑徳大学)	国民的ステレオタイプ	ステレオタイプとは何か?なぜ人々は他の国民の人たちに対してステレオタイプを持つのか?こうしたステレオタイプには根拠性があるのか?このような質問に答えていきます。
10	7月28日(水) 10:00→12:00	高井次郎	地球市民学の基礎	地球市民学とは何か?地球規模のさまざまな問題—貧困、民族紛争、多文化共生など—を取りあげながら、異文化理解の方法や地球市民としてのあり方について考えます。

文学探究講座

最前線で活躍する研究者による、『インド古典語サンスクリット』『日本語の不思議』『中国古代の宇宙論』『記念碑のなかの歴史』の講義です。

定員=50名	場所=文学研究科(予定)
申し込み締め切り=7月23日(金)	
担当部局=文学研究科	

※全回出席を前提としていますが、1日のみの受講も受けつけます。全回修了した受講生には「修了証」を授与します。

日 時	担当者	テーマ	概要
1 7月29日(木) 11:00→12:20	和田壽弘 (インド文化学)	インド古典語サンスクリット(梵語)の不思議	古代から現代まで使用され、大乗仏教の教典にも使用されたサンスクリットという言語の特色を解説します。日本語と比較すると、インドと日本人のものの見方の違いに気づきます。
2 7月29日(木) 13:00→14:20	町田 健 (言語学)	日本語の不思議	日本語は難しいとか、最近では日本語が忘れていたとか言われます。日本語は難しいところもあるし、意外にやさしいところもある言語です。このことについて、言語学という学問の視点から解説します。
3 7月30日(金) 11:00→12:20	神塚淑子 (中国哲学)	中国古代の宇宙論	中国古代において、宇宙や自然はどのように考えられていたのでしょうか？そもそも宇宙や自然という言葉も古い中国語です。宇宙創生神話や気の思想、宇宙と時間の観念などをお話します。
4 7月30日(金) 13:00→14:20	羽賀祥二 (日本史学)	記念碑のなかの歴史	私たちの身のまわりのいろいろな場所、あるいは観光地・史跡などには数え切れないほどの記念碑が建っています。こうした記念碑にはどのような種類があり、いつ頃から建てられてきたのでしょうか。記念碑を通して私たちの歴史を考えます。

視覚文化探究講座—「視覚力」をつける—

私たちは視覚の時代に生きています。アニメ、ゲーム、TV、インターネット、等等、多くの情報が、目に見える形で提供されます。この講座では、そのどこにも存在している写真を取り上げて、視覚の力について考えてみます。アート最先端の表現における写真を紹介し、また参加者が実際に実験的な写真を撮ることを試みるなかで、見る力、「視覚力」を身につけましょう。

定員=25名
申し込み締め切り=7月23日(金)
担当部局=情報科学研究科 名古屋大学ウィジュアルスタディーズネットワーク

※受講生は、デジタルカメラやケータイ電話など撮影のできる器械を持参してください。

日 時	担当者	テーマ	概要
1 8月2日(月) 10:00→12:00 13:00→15:00	茂登山清文 (情報科学研究科)	ポートレイトを見る／撮る	アートの写真の最先端を見ましょう。そして、みんなでポートレイト写真を撮り、視覚の伝達力について考えます

生命科学探究講座

第一部は、『生物多様性からみた生命』について、博物館で学びます。第二部は、『生命を支えるしくみ』について、生命農学研究科の先生方に講義をしていただきます。

定員=30名
申し込み締め切り=6月4日(金)
担当部局=名古屋大学博物館・生命農学研究科・附属高等学校

第一部：生物多様性からみた生命

日 時	担当者	テーマ	概要
1 7月17日(土) 10:00→12:00	東田和弘	化石から地球史を考える	地球史を明らかにする上で、化石(過去の生物の痕跡)がどのような役割を担うかを学ぶ。化石を題材に実習を行う。
2 7月23日(金) 10:00→12:00	新美倫子	骨から学ぶ(1): 出土骨からみえるもの	遺跡に残っている骨から昔の人の生活を考える。出土した魚骨の分類も行う。
3 7月23日(金) 13:00→15:00	蛭雑観順	骨から学ぶ(2): トリの骨から見えるもの	骨格標本を手にとって観る、感じる、考える。
4 7月26日(月) 10:00→12:00	吉田英一	生物が造るさまざまな鉱物 —地球上の物質循環と生命—	生命体を構成する物質の循環と鉱物との関係について、鉱物標本などを用いて講義する。
5 7月26日(月) 13:00→15:00	西田佐知子	植物から学ぶ：生命の多様性	植物は地球上に約28万種いると言われている。なぜこんなに多様なのか？実際の植物を観察しながら、生物の多様性について講義する。
6 7月27日(火) 10:00→12:00	大路樹生	長い時間軸で見た生命進化と多様性変化：爆発的出現と大量絶滅	この世の中が多様な動物で満たされ始めた今から約6億年前から現在までの生命史を概観し、その間に起きた動物の爆発的な出現・増加と大量絶滅について紹介する。

第二部：生命を支えるしくみ

日 時	担当者	テーマ	概要
7 7月29日(木) 10:00→12:00	海老原史樹文 (生命農学研究科)	心は遺伝するか？	動物では不安や恐怖などの心の状態を行動で判断することができます。講義では、マウスの行動と遺伝子との関係について学び、ヒトの心理と遺伝との関係について考えます。
8 7月30日(金) 10:00→12:00	大場裕一 (生命農学研究科)	生物発光のしくみ	様々な光る生き物を紹介し、その発光のメカニズムと最先端研究への応用について解説する
9 8月7日(土) 10:00→12:00	小田裕昭 (生命農学研究科)	食べ物がどうやって栄養になるか	食べたものが身体に取り込まれる消化吸収のメカニズムと、それが生物にとってどのような役割を果たすかについて学ぶ。
10 8月9日(月) 13:00→15:00	上野山賀久 (生命農学研究科)	生殖を科学する	動物の生殖機能は脳で制御されている。脳とホルモンのはたらきを中心に、生殖機能をコントロールするメカニズムについて解説する。

人間発達科学探究講座

教育と人間発達について探究する5つのコース、『第1コース(生涯教育開発)：生涯にわたる学びとキャリア形成』『第2コース(学校教育情報)：学ぶ意味の探究』『第3コース(国際社会文化)：高校生活と受験の異文化をさぐる』『第4コース(心理社会行動)：人間の心と行動を解き明かす』『第5コース(発達教育臨床)：人間関係を学ぶ/人間関係から学ぶ』を開講します。

定員＝各コース15名 場所＝教育発達科学研究科

申し込み締め切り＝7月23日(金)

担当部局＝教育発達科学研究科

※各コース別に募集します。受講希望が多数の場合は、抽選となります。複数のコース選択可。
全コースを修了した受講生には「修了証」を授与します。

日時	担当者	テーマ	概要
第1コース[生涯教育開発]：生涯にわたる学びと人間形成			
8月9日(月) 1. 10:30→12:00 2. 13:00→14:30 3. 14:45→16:00	寺田盛紀 松田武雄ほか	生涯にわたる学びとキャリア形成	人間は学校だけで学ぶのではなく、学校の外でも、学校卒業後でも、学ぶ場と機会はたくさんあります。このコースでは、第一に、皆さんの将来の進路や生き方に関わるキャリア形成について考え、第二に、学校外での生涯にわたる学びの場はどのようなものがあり、人々はどのように学んでいるのかを理解し、考えていきます。
第2コース[学校教育情報]：人と学ぶ楽しさと意味の探究			
8月24日(火) 1. 10:30→12:00 2. 13:00→14:30 3. 14:45→16:00	近藤孝弘 渡邊雅子ほか	学ぶ意味の探究	このコースでは学ぶこと、教えることの意味を比較や実証研究を通して考えます。今回は日本とドイツ、フランスの歴史教科書を比較しながら、同じ事柄がどのように描かれ、あるいは視覚的に表現され、その伝え方の違いによってどう意味付けや理解の方法が変わってくるのか、それはどのような理由によるのかを考えながら、受動的な学びから、学ぶということの意味を考える能動的な学びへの意識転換を試みます。
第3コース[国際社会文化]：異文化との出会いと自己探究のドラマ			
8月2日(月) 1. 10:30→12:00 2. 13:00→14:30 3. 14:45→16:00	伊藤彰浩 阿曾沼明裕ほか	高校生活と受験の異文化をさぐる	高校生活や大学受験のあり方は世界各国で多様な姿をみせています。このコースでは、高校生の皆さんにそうした多様性の一端にふれてもらうことで、異文化への理解を深め、日本の高校生活や受験・入試のもつ特徴や問題点をグローバルな視野で考えてもらいます。そのことで皆さんの進路意識のさらなる深化もめざしたいと思います。
第4コース[心理社会行動]：人間の行動と心を解き明かす			
8月23日(月) 1. 10:30→12:00 2. 13:00→14:30 3. 14:45→16:00	石井秀宗ほか	人間の行動と心を解き明かす —心理的なものを測る—	テストや性格検査の得点は何を表しているのか考えたことはありますか？それらの得点に疑問を感じたことはありませんか？このコースでは、学力や性格など心理的なものを測るということについて、体験的な学習を通して、その意味を考えていきます。
第5コース[発達教育臨床]：人間関係を学ぶ/人間関係から学ぶ			
8月4日(水) 1. 10:30→12:00 2. 13:00→14:30 3. 14:45→16:00	平石賢二ほか	人間関係を学ぶ/ 人間関係から学ぶ	あなたは、自分自身の人とのつきあひの癖を知っていますか？このコースでは、臨床心理学で用いられている技法を応用して、自己理解と他者理解の手助けとなるような体験学習を行います。それを通して、臨床心理学の基礎にふれてもらうことを目指します。

学びの社・学術コースの特色

1	大学における専門的な学びを体験することにより、自分の適性や興味・関心について考えるきっかけを得ることができます。
2	問題発見と解決型の学習を通して、大学での学びの基礎となる多元的な科学的思考力やリテラシーを育むことができます。
3	最前線で活躍する研究者や同じ目標をもつ仲間との学び合いを通して、幅広い学びのネットワークをつくることができます。
4	将来に向けて自分のキャリアを自覚的に選択する第一歩を踏み出すことができます。

[受講申し込みについて]

個人での申し込みは、① 受講希望講座名(人間発達科学探究講座についてはコース名を、文学探究講座については日にちを明記)

② 学校名 ③ 学年 ④ 氏名(ふりがな) ⑤ 住所 ⑥ 電話番号 を明記し、
中等教育研究センター宛へ郵送、または、下記のメールアドレス宛へお願いします。

学校での取りまとめによる申し込みの場合は、以上の事項についてまとめた内容であれば、どのような体裁でもかまいません。

※申し込みが多数の場合は、各講座の申し込み締め切り後、抽選をおこないその結果を連絡します。

※会場・場所については、受講許可の案内通知の中でお知らせします。

※申し込み方法は、中等教育研究センターのホームページにおいても掲載されていますので、ご参照ください。

<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/manabinomori.html>

申し込み・問い合わせ先

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院教育発達科学研究科内 中等教育研究センター
電話・FAX:052-789-2625(植田研究室) e-mail: t.ueda@nagoya-u.jp

名古屋大学の全部局の先生方へ

一中・高・大連携
附属学校
オープン・クラスへのお誘い



2010 (平成22) 年
11月2日 (火)・4日 (木)・5日 (金)



名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属中等教育研究センター
名古屋大学教育学部附属中・高等学校

2010（平成22）年10月12日

オープン・クラスへのご参加のお誘い

教育発達科学研究科附属中等教育研究センター長
植田 健 男

2005年より全学に向けて開催を始めました附属学校オープンクラスは、皆様にたいへん好評を頂き、附属学校の恒例行事となりました。昨年度は、インフルエンザの影響で12月8日の一日限りの開催となりましたが、今年度は、再び、11月2日と4日・5日の三日間の開催に戻させて頂きたいと思っております。

附属学校は、総合研究大学における附属中・高等学校として、高等教育を充実させるために必要な中等教育改善に関する実験的研究開発に取り組んでいます。10年以上前から実践を積み重ねてきた独自の総合的学習「総合人間科」をはじめ、2000（平成12）年に国立附属では唯一の「併設型中高一貫校（中学各学年2クラス、高校各学年3クラス）」となってからは、「新教科群」や「選択プロジェクト」など特色ある授業を展開するとともに、各部署の先生方のご協力を得ながら「学びの杜・学術コース」をはじめ、大学との連携をいっそう追求しています。また2005年度以降、高校での学びがどのように大学の学びと接続するかという課題に関して、実践研究を進めております。2006年には附属学校として3冊目の著作『学びをつなぎ未来を拓く』（黎明書房）を刊行いたしました。現在は、名古屋大学と共同してスーパーサイエンスハイスクール（SSH）プログラムを継続中です。

ぜひこの機会に附属学校においでいただき、授業を通じて新たな教育の取り組みや中・高校生たちの活動を実際にご覧いただきたいと思っております。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

《スケジュール》

1. 日程：11月2日（火）・11月4日（木）・11月5日（金）

2. 公開授業の時間帯

(1) 11月2日（火曜日）：午前9時40分（2限目）～12時35分（4限目）

(2) 11月4日（木曜日）：午後13時15分（5限目）～15時05分（6限目）

(3) 11月5日（金曜日）：午前9時40分（2限目）～12時35分（4限目）

※2限目は 9：40～10：30 3限目は 10：45～11：35 4限目は 11：45～12：35

5限目は 13：15～14：05 6限目は 14：15～15：05

3. 控え室・休憩場所

第1会議室（1階） 本校教員がご案内します。

4. お問い合わせ先

内線2680（附属学校職員室） 担当教員：石川・三小田^{さん}

E-mail:kumi@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp

5. 公開授業一覧

日 程	11月2日 (火)	11月4日 (木)	11月5日 (金)
2限 9:40～10:30	SLPⅡ 自然と科学 新教科 (高1B)		SLPⅡ 共生と平和の科学 新教科 (高2B) 中2A (理科・石川)
3限 10:45～11:35	SLPⅡ 自然と科学 新教科 (高1A)		SLPⅡ 共生と平和の科学 新教科 (高2A) 中1A (国語・加藤直) 中2B (数学・近藤) 中3B (英語・鈴木克)
4限 11:45～12:35	SLPⅡ 自然と科学 新教科 (高1C) 高1A (英語・三小田) 高2A (国語・杉本)		SLPⅡ 共生と平和の科学 新教科 (高2C) 中1A (社会・佐藤と) 高1B (数学・吉川) 高1C (世界史・曽我)
5限 13:15～14:05		総合人間科 中学1年生・2年生・3年生	
6限 14:15～15:05		総合人間科 中学1年生・2年生・3年生	

※平成18年度より、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール (SSH) の指定を受けています。

上記の中で、特色あるSSHプログラムは以下の3つです。

①11月2日 (火)

- 2・3・4限目：高1 サイエンスリテラシープロジェクトⅡ (SLPⅡ・新教科)
「自然と科学」 理科・数学・社会の教員がTTで担当します。
2限目の高1B、3限目の高1A、4限目の高1Cは同じ内容です。

②11月4日 (木)

- 5・6限目：中学総合人間科 (総合学習)
中学1年生と2年生は11月11日のフィールドワークの準備
中学3年生は広島研究旅行でのフィールドワークの準備

③11月5日 (金)

- 2・3・4限目：高2 サイエンスリテラシープロジェクトⅡ (SLPⅡ・新教科)
「共生と平和の科学」 英語・家庭科・体育の教員がTTで担当します。
2限目の高2B、3限目の高2A、4限目の高2Cは同じ内容です。

「中等教育研究センター」についてのご紹介 *Center for Secondary Education Studies (CSES)*

教育発達科学研究科内措置による「中等教育研究センター」は、大学と附属学校を橋渡しする研究機関です。高等教育を充実するために、中等教育に関するさまざまな問題を総合的に把握しつつ、附属学校をフィールドとして実証的・理論的に解明し、全国の中・高校や教育委員会、文部科学省に向けて、実践方法や教育プログラム、政策などへの諸提言を行うことを目的とし、他方、環太平洋の国々との中等教育に関する実践研究交流も進めています。

参 加 票

お願い：準備の都合がございますので、お手数をおかけしますが、ご参加いただける場合は、この参加票を 10月28日（木）までに、学内便、ファクス、Eメールのいずれかでご返送ください。あて先は下記のとおりです。

- ① 学内便：あて先 附属学校 石川 久美
- ② ファクス：内線 2696 附属学校 石川 久美
- ③ Eメール：kumi@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp

附属学校オープン・クラスに参加します。

御芳名 []

ご所属 []

連絡内線 []

または、メールアドレス []

参加予定日・予定時限 [月 日 () 曜日 () 時限]

ご協力いただき、まことにありがとうございました

お 控 え

参加予定日・予定時限 [月 日 () 曜日 () 時限]

名古屋大学大学院教育発達科学研究科 附属 中等教育研究センター
〒 464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学教育学部附属中・高等学校内